

令和7年度 第1回海老名市下水道運営審議会 会議録

日 時 令和7年7月25日（金）14時から
場 所 市役所6階 議員全員協議会室
出席委員 8名
事務局出席者 理事兼まちづくり部長
理事（都市・建設担当）
まちづくり部次長（建設担当）
まちづくり部次長（都市担当）
まちづくり部参事（下水道会計担当）
まちづくり部参事兼下水道課長
下水道課管路施設担当課長
下水道課主幹兼業務係長
下水道課主幹兼管路施設係長
経営係長
経営係主査
業務係主任主事
傍 聴 者 なし

- 1 開 会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 会長あいさつ
 - 4 委員紹介
 - 5 議 題
- （1）令和6年度決算・経営状況報告

会 長： それでは、議題に入ります。議題（1）「令和6年度決算・経営状況報告」、事務局から説明をお願いします。

事務局： 【資料1に基づき内容説明】

会 長： 事務局の説明が終わりました。この件についてご意見、ご質問のある方はどうぞ。

A 委員： 先ほどの説明の中で埼玉県八潮市で起きた事故に対して、海老名市でも点検をされたとありました。その事故原因は特定できていて、その原因にかかる箇所を点検の対象にしたということなんでしょうか。

事務局： 八潮市の陥没事故は流域下水道で4m程度の大きな管が壊れたということが原因とされています。海老名市では市が管理する汚水管渠のうち、80cm以上の管渠について緊急点検として目視による点検を行いました。

汚水管渠は汚水から発生するガスによりダメージを受けることから異常の有無をマンホールから目視で確認しました。

A 委員： 今回の点検では、八潮市で発生した陥没事故の原因となるような箇所については点検が行われたということで理解すればよろしいですか。

事務局： そのとおりです。硫化水素が管渠にダメージを与える主な原因と言われています。硫化水素が発生しやすい場所としては汚水がたまりやすい場所と言われていますのでそのような箇所の点検を実施したところです。

会 長： 他にございますか。

B 委員： 説明の最後のところで公共下水道事業の経営状況で当面の間で確保したい資金として10億円という数字が出ておりますが、令和5年度で7.9億円、令和6年度で6.5億円となっておりますがこの10億円に向けて資金を確保する方法は何かあるのでしょうか。

事務局： 実際のところ現金を増やす手立てというのが中々ないというのが現状です。説明でもお話ししたとおり、企業債償還元金、その利息の返済が徐々に減ってきているところでもありますので、おのずと少しずつ増えていく見通しになっております。

そのほかでは、積極的に国庫補助金の獲得に努め財政負担の軽減を図っています。

収入を増やしたいといっても民間企業のように商品を多く売るといったことは下水道事業においては難しいところもあります。

あとは費用を抑えるために効率化するといったことなど、できるものはしていくことで資金を増やしていくことができればと考えています。

会 長： 他にございますか。

C 委員： 私も今の話に近いですが、確保したい水準として10億円という数字が出ていますが災害復旧費が約5,000万円、これは中身はどういうことを想定されているのでしょうか。

事務局： 災害の規模によりますが災害復旧費として5,000万円です。というわけではなく、第一義的な復旧費としての5,000万円と考えています。

基本的には災害復旧債のような借り入れができることを想定しておりますので、まずこの5,000万円に対応し、本格的な復旧工事では別の予算が必要になってくると思います。

そちらについては、この現金というよりは、それに対する財源を確保して、実行する形になろうかと思っています。

C 委員： 理解しました。災害では他市でもかなり大きいものが、今ニュースでも出ていますが5,000万円程度で何ができるんだろうと思うので、この金額を増やすことも一つ考えられると思います。以上です。

会 長： 他にございますか。ほかにないようであれば、議題（1）「令和6年度決算・経営状況報告」を終結したいと思います。ご異議ありませんか。ご異議なしと認めます。よって議題（1）を終結させていただきます。

（2）経営戦略に基づくモニタリング結果報告

会 長： それでは、議題に入ります。議題（2）「経営戦略に基づくモニタリング結果報告」、事務局から説明をお願いします。

事務局： 【資料2に基づき内容説明】

会 長： 事務局の説明が終わりました。この件についてご意見、ご質問のある方はどうぞ。

副会長： ご説明ありがとうございました。1点目としてストックマネジメント計画に基づいた施設の改築関係の項目です。計画値の270mに対して実績値56.2mということで下回ってるように見えますが、調査の結果、対応が不要なので実質的には完了しているという説明がありましたが、少しわかりにくかったので、もう少し詳しくお聞かせください。

事務局： スtockマネジメント計画に基づき污水管渠の点検を行い、壊れてるなどで補修や改築が必要な箇所を当初の見込みで270mということで、計画していましたが、点検した結果で補修などが必要な箇所としては56.2mであったということです。

海老名市の管渠は比較的健全な状況が現段階では保てているというところがこの数字に表れたと考えています。

副会長： ありがとうございます。質問した意図としては、先ほど来、話が出てます八潮市の陥没事故の関係があったので、この数字だけを見ると、市民の皆さんも対策が進んでないのではないのかといった不安に思う部分もあるかと思います。

資料3の本編を見ますと、今ご説明のあったような内容があります。

もし概要版を公表するということであるならば、その辺の注釈があった方が、計画値の270m自体が、実際補修などが必要な箇所としては56.2mで、実質100%完了していますといったような見せ方がいいのではと感じたのが1件です。

もう1点が、水害対策の推進で、雨水管渠等の整備にある都市浸水対策

達成率というのが、恐らく委員の皆様も何の数字なのかわかりにくい部分もあるかと思います。

都市浸水対策達成率は市街化区域や市内の都市浸水の分母となるエリアを決め、そのエリア中で整備として雨水管渠や雨水排除ができるようなものを設置し、雨水が排除できるエリアの割合を示した指標になります。

簡単に言うと雨水管が整備できてるエリアがどのくらいあるのかというところを示しています。

私も下水道協会におりますのでこの数字は理解してまして、国交省に毎年報告するような形になってると思います。

エリアの中で、1時間に50mmの雨が降る計算で雨水管渠の整備ができたエリアということですが、この40%強という数字を見ると、市民の方もあまり対策が進んでいないのではないかと、残りの60%の地域は浸水に対して弱いのでは、といった誤解を招いてしまうこともあると思います。

この会議入る前に海老名市が公表している雨水排水に関する計画の雨水管理総合計画というこれ一つだけで、雨水排水の計画をどう進めていくかがわかる資料を拝見しました。

これを見ますと、同じ雨が降っても、浸水しやすいエリアと浸水しにくいエリアがあり、自己紹介の際に他の委員さんからもお話がありましたが崖の下のところは雨水が流れ込みやすい。

雨水管理総合計画にも書いてありますが凹地や坂の下などは浸水しやすく、逆に50mm降っても、在来の側溝があるなど周辺環境によっては浸水しない場所もあります。

市での対策の進め方としては、このエリアは浸水が起きやすいといったことを定めて、その中でも優先順位を決めて、集中的に投資をすると書いています。

意見ですが、この都市浸水対策達成率は国とか県に報告する資料として必要なものとして作成していることかと思いますが。しかし市民の方にとっては、自分が住んでるところはどういう状況だろうか、危険なのか、計画はどのようになっているのかと考えるとと思います。

雨水管理総合計画には浸水重点地区が定められており、そのうち何地区において、どの程度整備が進んでいる、例えば基幹的な大きい管渠は既に整備済みで一定程度の効果が出ているなど、そのような市民目線での伝え方をした方がより市民の方に伝わるとと思いますので検討されてはどうでしょうかという、あくまでも意見です。

B 委員：

今の副会長の話はすごくわかりやすく、副会長から助け船が出るということはありがたいなと思いながら聞いていました。私は住まいが国分ですが、生まれは東柏ケ谷でした。以前住んでいた東柏ケ谷ではあまり高いところなんですけど、当時の下水道を調べてもらったら、綾瀬側に放流しておりそちらの管が細く、水が溢れたということがありましたが私が住んでいる間では結局改善されなかったです。

市民目線というところで、最近、自治会のブロック会議で震災が発生し

た後に、下水道の復旧がどうなるんだろうかということで、皆さんからいろんな意見が出ました。

例えば、どの時点でトイレが使えるのか、家庭排水が流せるのか、ということが話題になったことがあり、今のお話を聞いていると、市民の方は実際発災だけに限らずそういうことに対して何か認識というか、今で言うところの噂だとか、真偽が不確かな情報だけ先行して入り、実際の部分が入ってこないとすると、パニックや良くないことが起こるのではないかなと思ってしまいます。

今回初めてここに参加させてもらって、経営状況は非常によくわかりました。健全ということはわかりますが、例えば災害時の下水道の使用に関する情報など実際の市民の生活にどのように関わっていくのかということころまで伝わると、山岸副会長が触れたような、噛み砕いた説明だとわかりやすく、割と不安が拭えるのではないかと感じました。以上です。

事務局：

災害対策について、うまく PR ができずに申し訳ありませんが、災害時にトイレが使えないなどの情報が能登半島の地震の際も新聞やニュースで流れましたが、污水管渠の耐震化についても、集中的に進めていこうと考えています。従来から緊急輸送道路下の污水管渠の耐震化を進めていますが、昨年度には避難所、防災拠点についての上下水道一体の耐震化対策計画を策定しており、集中的な予算投下と早期の安全性確保を目指しています。

また、雨水の関係では、雨水管理総合計画に基づき整備を進め、污水の関係ではまた別の計画を策定していますので、それぞれ予算を投下して整備を進めるということで動き出しているところです。以上です。

会 長：

他にございますか。他にないようであれば、議題（２）の意見質疑を終結したいと思います。ご異議ございませんか。ご異議なしと認めます。よって議題（２）を終結させていただきます。

6 その他

会 長：

次に次第６のその他について、委員の皆様から何かございますか。

事務局から何かございますか。ないようですので、本日の議題は全て終了いたしました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

7 閉 会